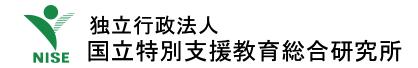
専門研究B

小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童 生徒等に対する指導・支援に関する実際的研究

(平成23年度)

研究成果報告書

平成24年3月



はじめに

国立特別支援教育総合研究所の視覚障害教育研究班では、平成 22 年度に専門研究Bとして「小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等に対する指導・支援に関する研究」を実施し、平成 23 年 3 月に研究成果報告書を作成いたしました。

本年度におきましては、継続研究の位置づけとして平成 22 年度の研究成果を踏まえ、いわゆる特別支援学校のセンター的機能にかかる取組に関して、実態調査等によって明らかとなった全国の視覚障害者を教育する特別支援学校(以下、「盲学校」と記す。)における先進的な取組や特徴的な取組をグッドプラクティスとして取りまとめました。

また、盲学校のセンター的機能の一環として各学校において実施されている地域支援に関して、先進的な取組を行っている盲学校の協力を得て、その実際について把握するとともに実践上の課題を明らかにすることを試みました。

さらに、昨年度に取りまとめた専門研究A「特別支援学校における支援システムの充実に向けた総合的研究-特別支援教育体制の取組の状況とその改善に向けた課題に関する研究-」(研究代表者:松村勘由)の研究成果の中から盲学校に関わる部分について更なる分析を加え、盲学校におけるセンター的機能について全体的な特徴を明らかにすることを試みました。

小・中学校の通常の学級に在籍している視覚障害のある児童生徒に対する指導・支援の 状況の把握と課題の整理については、支援体制の状況の把握とともに、感覚代行機器等の 使用状況等についても事例を通して取り上げています。また、今回は一人の全盲児童の小 学校在学中の6年間に渡る関わりについても、縦断的な視点から総括するという試みも行っています。

折しも、特別支援教育の在り方に関する特別委員会の合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループにおいて、障害のある子どもたちに対する合理的配慮の定義やその具体的内容が検討されております。このような経緯を踏まえると、障害のある子供たちに対する理解啓発が教育の分野はもとより広く社会一般に広がっていき、今後は地域の小・中学校等で学ぶ視覚障害のある児童生徒等が一層増えていくことが予想されます。

このような状況を見据えた今こそ、これからの盲学校が果たすべき役割は支援の必要な 児童生徒の在籍校の如何に関わらず、県下や管轄下の視覚障害のある子どもたちを遍く支 援していくことだと考えます。

本研究報告書が、各盲学校におけるセンター的機能の一層の充実のために、何らかの形で一助となることを願っております。

また、本報告書をご一読いただき、皆様の忌憚のないご意見等をいただければ幸いです。 最後になりますが、本研究の遂行にあたりご多用中にもかかわらず訪問調査等に快く協力してくださいました各盲学校の学校長ならびに、取組の説明や校内見学等にご協力をいただきました諸先生に心より感謝申し上げます。

目 次

はじめに

Ι	研究の概要	1
	. 研究の趣旨及び目的	1
	. 研究の方法	2
	. 研究体制	4
I	連携を軸とした地域支援の現状ーアンケート調査の分析からー	5
	. 地域への支援の仕組みと機能から	5
	. 平成 22 年度研究の調査概要	5
	. 関係機関等との連携に焦点を当てた盲学校の地域支援について	6
	. 連携を軸とした地域支援の現状から見えてきたこと	10
ш	4、4、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6、6	1.0
Ш	センター的機能に関する先進的な取組例	12
	. 支援センター	12
	. サテライト教室	15
	. 支援籍を活用した交流及び共同学習の取組	18
	. 県下の視覚障害のある児童生徒の把握に関する県教育委員会との連携	23
IV	センター的機能に関する課題の解決に向けた提言	28
	. 校内支援体制の充実に向けて	28
	. 視覚障害教育における専門性の担保と継承に向けて	29
	. 予算確保の状況に大きく影響を受けない地域支援の在り方を目指して	31
	. 視覚障害のある児童生徒等の把握に向けて	33
V	小・中学校に在籍する視覚障害児童生徒の事例について	35
-	. 小・中学校在籍視覚障害児童生徒の状況と支援-感覚代行ツールの活用の	
	実態把握と課題に視点を当てて一	35
	. 通常の学級に在籍する全盲児童の縦断的な学校生活の振り返り	49
VI	総合考察	68
資	·:訪問調査等により協力をいただいた特別支援学校(盲学校)一覧	74